

連携産だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2016.11 vol. 127

病棟紹介 ■ 東5階病棟 ■



東5階病棟は、脳血管内科・脳神経外科を診療科として、SCU9床を有する定床50床の脳卒中専門病棟として機能しています。主に、脳卒中急性期の内科的・外科的治療が行われています。ホットラインにて24時間の救急患者の受け入れを行い、血栓溶解療法や血管内治療などの脳卒中発症直後の集中治療を行っています。スタッフは、診療科医師8名、看護師60名、看護助手4名、業務技術員1名、他にリハビリテーション科、薬剤部、栄養管理室、ソーシャルワーカー、医師クラークと共に患者中心のチーム医療を主眼に、医療・看護の提供を行っています。

看護師は、脳卒中急性期の全身管理及び術後管理を行っており、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師が中心となり、早期リハビリテーションを実践し、日常生活援助を通じた生活再構築のための支援を行っています。さらに、ベッドサイドリハビリテーション、摂食嚥下、褥瘡対策、退院支援のチームがコメディカルと連携し、多職種カンファレンスによる多角的視点からの検討を行いながら、質の高い看護援助の提供をめざしています。また、今年度より認知症看護認定看護師を中心に、認知症患者に対する看護について日々の看護援助の中で学びを深め、レクリエーションなどを行い、「その人らしく過ごすことができる」ように取り組んでいます。歩行できなかった患者さまがリハビリで歩けるようになり笑顔が見られたり、嚥下訓練で食べれるようになったり、日々回復していく姿を励みにスタッフ一丸となっています。患者さまが早期に日常生活を取り戻せるように、地域医療機関との連携を強化していきたいと考えています。

（文責：東5階病棟師長 高木 幸子）



診療科紹介— 心臓血管外科 —

当科の最近の取り組みについて紹介します。現在、年間 250 例の開心術と 150 例の腹部大動脈瘤はじめ末梢血管症例をこなしています。

このところ急激に症例数が伸びているのが大動脈瘤に対する血管内治療（ステントグラフト）です。従来、高齢 high risk との判断で治療適応外と考えられていた症例に対しても、広範囲に亘る胸腹部大動脈瘤や大動脈解離症例も含めて、単独あるいは open surgery との併施で対応可能となりました（図1）。これには経験の積み重ねに加えて、新しい手技の導入や Device の開発進歩も大いに貢献しています。当院においても開胸手術を回避し成績向上を目指していますが、特に呼吸機能障害の強い患者さんには大変有用な治療法です。弓部大動脈瘤に関しては依然、人工血管置換術を標準術式と考えていますが、体外循環の困難な症例には off-pump で脳分枝再建を行った後にステントグラフトを追加しています。また遠位側に広範囲に広がった瘤では術野からのステントグラフトの挿入や追加 TEVAR の適応も考慮し慎重に治療計画を立てています。

僧帽弁形成術は手技が安定し変性疾患や感染性心内膜炎を中心に年間 40 例程度施行しています。最近は正中切開を避けて右肋間小開胸創からの到達症例も増加しています。胸骨感染のリスクもなく術後の回復も早いため患者さんには大変好評ですが、大切なことは手術の質を維持することであり、何よりも安全性を最優先にして厳格に患者選択を行っています。一方、大動脈弁の形成術は手技的に難しく未だ僧帽弁形成術ほど普及していませんが、全ての弁尖を自己心膜で再建する方法は魅力的で、今後積極的に対応していく方針です。大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療の導入に向けて今年度 hybrid 手術室を整備しています。先行施設での研修を終えた医師も揃い、後は設備の完成を待つばかりです。導入は遅れましたが、この間の device の進歩はめざましく、小柄な日本人の体格に合わせてカテーテルサイズの小口径化に加え、弁の leak 防止機能や一旦 deploy 後の再収納も可能となった新製品が登場し、いよいよ本格的な TAVI 時代の到来を告げています。—



図 1. 弓部大動脈置換術後の胸腹部大動脈ステントグラフト挿入



図 2. 動脈グラフトによる冠動脈バイパス術
 1) LITA-LAD 左内胸動脈 - 左前下行枝
 2) RITA-LCx 右内胸動脈 - 左回旋枝
 3) Ao-RA-D1-LCx 大動脈 - 左横骨動脈 - 対角枝 - 回旋枝
 4) RGEA-4PD 右胃大網動脈 - 後下行枝

刻も早く患者さん方の期待に応えられるように準備を進めています。また、冠動脈バイパスについても、上行大動脈の性状不良例を中心に OPCAB を用いていますが、若年例には動脈グラフトを多用した術式の適応を拡げています(図2)。

今年度は病院機能向上を目的に東4階病棟に HCU を4床整備しました(図3)。ICU とともに重症患者の受け入れがこれまで以上にスムーズに行えるようになり、まもなく open となる心臓病・脳卒中救急センターとともに病院の急患対応も大いに改善するはずで、病院機能の分化、強化、連携の重要性が高まっています。地域の医療機関との連携を密にして、患者さんに信頼される医療を展開していく所存です。今後とも、ご理解とご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

(文責：副院長 森山 由紀則)



図3-1 東4階病棟HCU入口



図3-2 東4階病棟HCU内部

新任紹介



病理診断科

城ヶ崎 泰代

初めまして。城ヶ崎泰代と申します。山口県生まれ、広島育ち、元祖カーブ女子です。平成5年に広島大学を卒業し、平成11年に渡米・出産・帰国、長いブランクの末、この度11月より勤務させていただくことになりました。見るもの全てが新鮮で置きの毎日です。記憶力も体力も非常に落ちて、自分でもあきれられる日々ですが、ゼロから学んでいこうと思っております。ご指導の程よろしくお願いたします。



第二循環器科

蔡 榮鴻

みなさん、こんにちは。第二循環器科の蔡榮鴻と申します。当院への赴任は4回目となります。2014年4月から2年半、筑波大学循環器内科のクリニカルフェローとして国内留学し、各種不整脈のアブレーションやデバイス治療にどっぷり浸かってきました。不整脈領域においては特に、少しでも多くの方のために最適な治療ができるよう、これからも頑張ります。どうぞよろしくお願いたします。



婦人科

大田 俊一郎

2016年9月1日より婦人科へ赴任しました大田俊一郎です。久留米大学より熊本県市立熊本市市民病院に赴任しておりましたが、4月14・16日に発生した熊本地震により同院の産婦人科診療が無期停止となりました。そのため、職業難民となりましたがありがたいことに鹿児島大学医学部産科婦人科学教室の小林裕明先生よりお声がけいただき久留米大学から鹿児島大学へ移り当院に勤務させていただくこととなりました。専門は産婦人科腫瘍学と緩和ケアですが不妊症・内分泌以外の産婦人科一般を25年行って参りました。このご縁を大切に粒々辛苦で診療にあたります。どうぞよろしくお願い致します。また婦人科疾患で何かありましたらご連絡なくお声がけください。



脳神経外科

河井 浩志

10月から勤務することとなりました河井浩志と申します。2009年から2年間勤務させて頂いたことがあります。以前勤めていた時から勤務されている方々も多く、また一緒に仕事ができ嬉しいのですが、以前は新卒だった方がリーダーとなっているのを見て月日の流れを感じました。今回の人事で脳神経外科は2人に縮小しましたが今まで以上に症例数を増やせるよう積極的に救急も引き受けていきたいと思っています。機械音痴の私はカルテ操作でご迷惑をおかけすることもあるかと思われませんが何卒よろしくお願いたします。

できることから始めよう!

平成28年度 国立病院機構QC活動奨励表彰に出席して

平成28年10月18日(火) 国立病院機構本部において「できることから始めよう!平成28年度国立病院機構QC活動奨励表彰」の、九州ブロック最優秀賞を受賞しました。平成27年度院内QC活動発表会で優勝した東4階病棟の「ピクトグラムで安心安全～ピクトグラムでベッドサイドの環境整備～」を九州大会に応募したことが、今回の受賞につながりました。

ピクトグラムとは、「絵文字」「絵単語」などと呼ばれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号(サイン)の一つです。道路標識をイメージしてもらえば分かりやすいと思います。今回病棟で、ケアする際に注意が必要な患者さん、たとえば消毒液にアレルギーがあったり、透析でシャントがあったりする場合等のピクトグラムを12種類作成し、スタッフ全員で注意喚起や情報共有に努め、効果があったことをまとめました。

院内でQC活動が始まって、3年目に手にした大きな賞です。受賞の報告を聞いた時はびっくりするやら、何かの間違いではと胸がドキドキしました。それも九州グループで最優秀賞と聞いてさらに驚き、東京での授賞式に病院を代表して参加させていただき重みを感じました。

授賞式では国立病院機構本部理事長から直接表彰状を頂き、そのあとの懇談会では表彰を受けた各病院の取り組みのPR合戦となりました。各病院の取り組み内容を聞いて発想に磨かされ、参考になるような取り組みも沢山ありました。

各グループの最優秀賞は11月11日、12日に開催される国立病院総合医学会でステージ発表のため現在準備を行っているところです。全国で最優秀賞となるよう頑張ってください。

(文責:看護師 清水 優一)



お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

T892-0853 鹿児島市城山町8番1号

TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 前田・谷口・田上・吉永・植原・吉智・菊水・久保・榎木・田辺・宮崎

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ崎・原田・上妻

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・夜間等は当直室で対応します。

